

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>○社会の中で自立して生活ができる力の育成 ○職業生活に必要な意欲と能力の育成 ○豊かな人間性、たくましく生きるための心と体の育成</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>1 社会人としての基礎的な力の育成 2 職業生活に必要な力の育成 3 地域で生きる力の育成 4 教職員の専門性・授業力の向上 5 組織力の向上</p>
---------------------------	---	----------------------	--

年 度 当 初				評 価 結 果 ()月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 社会人としての基礎的な力の育成	よりよい生活習慣の徹底 (○学年部、指導部、保健部)	○昨年度、目標に挙げ取り組んだが、年度末アンケートで1日を通じて元気づけ挨拶ができたという回答した生徒が44%であった。	○8割の生徒が気持ちの良い挨拶(場にあった挨拶)をすることができる。	○ビジネスマナー講座、進路指導部の講話の実施により意識付けを図る。 ○生徒会、教職員による挨拶運動を実施する。			
	人との良い関係性や社会性を育む指導 (○学年部、支援部)	○人との関係性がうまく結べない生徒がいる。 ○自尊感情が低く自分に自信がなかったり、困ったことを相談することができない生徒がいる。	○8割の生徒が、学校生活が充実している・仲間との人間関係が楽しいと感じている。	○教育相談の場を設定する。 ○スクールカウンセラーと連携して支援を行う。 ○生徒情報データベース等で生徒の情報や支援について共通理解を図る。 ○人間関係づくりを意識した活動を行う。			
	自治活動(生徒会活動、寄宿舎自治活動、チューター制度等)の推進 (○指導部、寮務部)	○生徒会活動や学校行事において司会や進行等、年間を通じて生徒が活躍する場面が増えつつある。 ○寄宿舎では、舎生が自治活動の手順について理解し、生活をよりよくするための話し合いも活発になってきている。	○生徒会活動で、生徒が主体的に活動や行事の企画運営に関わることができる。 ○自治会行事の運営を指導員と連携を取りながら生徒主体でできる。	○見通しを持って活動できるように事前の話し合いや準備の時間を確保し計画的に行う。 ○活動の目的や課題を確認し合う機会を設定する。 ○自治会役員、部長等が行事や運営の計画、実践を繰り返し行う。			
2 職業生活に必要な力の育成	働く心構え、働く意欲の指導 (○進路部、学科部、学年部)	○現場実習で働く意欲が乏しいと評価される生徒が見られた。 ○働く心構えが不十分なままに就職してしまう生徒がある。 ○企業調査により専門的な技能を求める企業は少なく「働く意欲」等を求めている。	○生徒一人一人が、学年別の目標を理解し、実習への意欲が向上している。	○心の道場、連続ミニセミナー、成果発表会等を計画的に実施するとともに、振り返り等で意欲を引き出す。 ○進路に関する学習の導入段階や学年集会等で卒業生を紹介する。			
	専門教科共通目標の徹底 (○学科部)	○専門共通目標があることは認識しているが、その項目について具体的に理解している生徒はまだ多くない。	○生徒一人一人が、学年別の共通目標を具体的に理解し、実践できている。	○各専門教科での始業時や終了時の復唱や振り返り等で繰り返し強調し、指導する。 ○コース学習終了時に共通振り返りシートを活用する。			
	専門的な職業スキルの指導 (○学科部、進路部)	○選択したコースと異なる業種を進路先として選ぶことは少なくない。 ○校外検定受検や校内検定作成が遅れているコースもある。	○コース間の連携によって就職までに、必要とするスキルを学ぶ機会を作れている。 ○全コースが検定を作成し、実施している。	○コース間の派遣制度の確立を図る。(ルール作成) ○検定未実施のコースに働きかけ、校内検定を作成する。			
3 地域で生きる力の育成	地域連携事業の推進 (○学科部、進路部)	○積極的に近隣の施設等に出向いて、地域密着型の職業教育を実践している。しかし、年度によって活動の有無があるなど不安定なコースもある。また、施設担当者から評価していただくことはなく、指導していただくだけの機会となっている。	○毎年、地域密着型の活動を計画、実施する。 ○外部の方から評価をいただくことで、地域や社会に求められる人材育成につながる。	○地域密着型職業教育として、施設や事業所での活動を年間計画の中に位置づける。 ○校外での学習の際は、専門共通目標について施設担当者に評価していただき生徒に還元する。			
	生涯体育、文化・芸術活動の推進 (○指導部)	○部活動において、計画的に活動し各種大会や地域のイベントへの参加も増えてきつつある。	○各種大会や地域のイベントに積極的に参加している	○各種大会や地域イベントの情報を早めに生徒に伝えるとともに、練習を計画的に行う。			
4 教職員の専門性・授業力の向上	授業研究会の実施 (○研究研修推進)	○第2回琴の浦教育検証プロジェクトの結果より、企業が求める力として、昨年度より専門教科で取り組んでいる共通目標の指導の継続が必要であることがわかった。	○本校職員が専門教科で4つの共通目標について効果的な指導を行い、企業からの生徒の評価が向上する。 ○9割の職員が授業を参観し、かつアンケートを提出する。	○共通目標を視点に掲げた専門教科の授業公開を行う。 ○エキスパート教員による授業公開を行う。			
	教育検証プロジェクトのフィードバック (○研究研修推進)	○昨年度実施した教育検証プロジェクトより、①専門教科の4つの共通目標の継続指導、②コミュニケーション力の向上、③生徒の実態把握と適切な支援、④職員の専門性及び指導力の向上の視点で取り組む必要があることがわかった。	○分掌の各部が連携して取り組み、職員の指導力及び専門性の向上を図り、生徒に働く意欲を培う。	○共通目標に視点を当てた授業公開を実施する。 ○自立活動の授業公開及びコミュニケーションに課題をあてた生徒への直接指導を実施する。 ○客観的な生徒の実態把握を実施する。 ○全職員での職員研修会を実施する。			
5 組織力向上	連携・協働による組織的な指導、支援 (○総務部)	○生徒一人一人課題や環境は多様化し、効果的な支援や指導の在り方について、職員間の連携や協働が必要である。	○問題意識を高め、早期発見、早期対応、早期解決のための情報共有、連携ができている。	○生徒情報システム等の各種データベースの積極的活用による迅速な報告、連絡、相談による情報の共有化を推進する。 ○職員会議や朝礼等で報告、連絡、相談を行い、風通しの良い職場づくりに努める。			
	教職員の対応力向上 (○総務部)	○様々な事案に対し、対応力の向上が必要である。また、県内での不祥事が絶えない現状がある。教職員一人一人が常に問題意識を持ち、継続して研鑽を積むことで対応力の向上を図ることが必要である。	○学校全体の問題としての対応の仕方について共通理解を図ることができる。 ○コンプライアンスの意識を高める。	○対応力研修を実施する。 ○終礼等でのコンプライアンス研修や掲示物での啓発を行う。 ○琴の浦ルールブックの活用を推進する。			